

## #5 肉を頼みとせず、キリストのゆえに、またキリストを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失と勘定する

(メモリアル・デー特別集会) 2019/7/29-8/4

**I. キリストを信じる私たちは、肉を頼みとすべきではありません。私たちの信頼は完全に主にあるべきです:**

**A.** ピリピ3:3~4の肉は、私たちの天然の存在において私たちであるすべてと、私たちが持っているすべてから成っています。ピリピ3:3 **なぜなら、私たちこそ割礼の者であり、神の霊によって仕え、キリスト・イエスの中で誇り、肉を頼みとしていないからです。**

**B.** これらの節の「肉を頼みと」することは、私たちが肉において持っているすべての善い項目と資格を指しています。私たちの天然の存在の尊い、愛すべき、すぐれた面もやはり肉です。

**C.** 神の子供たちの間の最も大きな問題は、肉が何であるかを彼らが知らないことと、彼らの肉が対処されてこなかったことです。ローマ8:8 **また肉の中にいる者は、神を喜ばせることができません。** 1. 自信は、肉の特徴です。対処されていない肉の最も明白なしるしは、自信です。2. 肉を頼みとすることは、私たちがキリストから離れさせます。 **月**

**D.** 私たちはキリストにある信者として、肉を頼みとしない者たち、自分の天然の能力や受け継いだものに信頼しない者たちであるべきです。ピリピ3:3 **なぜなら、私たちこそ割礼の者であり、神の霊によって仕え、キリスト・イエスの中で誇り、肉を頼みとしていないからです。**

コロサイ2:11 **またあなたがたは、彼の中で、手によらない割礼をもって割礼されました。すなわちキリストの割礼の中で、肉の体を脱ぎ捨てました。**

1. 私たちは再生されましたが、自分の墮落した性質の中に生き続け、自分が肉の中で行なう事を誇り続け、自分の天然の資格を頼みとし続けているかもしれません。

2. 私たちは神によって照らされたときにはじめて、自分の天然の資格、能力、知性に信頼しないと、真に言うことができます。そのときはじめて私たちは、肉を頼みとせず、完全に主を頼みとすると証しすることができるようになります。

**E.** もし私たちがキリストを経験しようとするなら、肉に信頼してはならず、ただ主にだけ信頼しなければなりません。これがキリストを経験する秘訣です。 **火**

**II. キリストを知る知識の卓越性は、彼のパースンの卓越性から来ます:**ピリピ3:8 **私はまた、私の主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定します。その方のゆえに、私はすべての事で損失を被りましたが、それらをちりあくと勘定します。それは、私がキリストを獲得するためであり。**

マタイ17:5 **見よ、雲の中から声があつて言った、「これは私の子、愛する者、私は彼を喜ぶ。彼に聞け！」。**

**A.** キリストを知る知識の卓越性は、キリストに属する知識ではありませんし、キリストご自身が持っている知識でもありません。そうではなく、この知識は私たちが主観的にキリストを知ることです: 1. ピリピ3:8の「知識」は、実はキリストと彼の卓越性に関する啓示、ビジョンを意味します。

2. 神がキリストをパウロに啓示した時、パウロは、キリストの超越性、無上の尊さ、ずば抜けた価値を見ました。

**B.** キリストを知る知識の卓越性は、私たちによって実際化されたキリストの卓越性です: 1. 私たちはキリストの尊さと、すべてを含む無限のキリストを知る知識の卓越性についてのビジョンを持つ必要があります。 **水**

2. キリストを知る知識の卓越性は、啓示によって来ます。キリストに関する啓示がなければ、私たちがキリストを知ることはできません。マタイ16:17 **イエスは彼に…言われた、**

「バルヨナ・シモン、あなたは幸いである。あなたにこのことを啓示したのは血肉ではなく、天におられる私の父だからである」。11:27 **すべての事柄は、私の父から私に渡されています。父のほか、子を十分に知る者はなく、子と、子が父を啓示しようとする者のほか、父を十分に知る者はいません。**

**C.** もし私たちがキリストを経験しようとするなら、キリストを知る知識の卓越性をまず持つ必要があります:

1. 私たちは、キリストについての啓示を通して彼を知ることなしに、彼を経験することはできません。2. もし私たちがキリストについてのさらに高い啓示を持っていないければ、キリストに対するさらに高い経験を持つことはできません。

3. キリストに対する私たちの経験は、キリストを知る私たちの知識の卓越性を超えることはできません。 **木**

**III. パウロはキリストを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定しました:**ガラテヤ1:15-16 **ところが、母の胎内にある時から私を選び分け、ご自身の恵みを通して私を召してくださった神が、喜んで御子を私の中に啓示し、異邦人の間に、御子を福音として宣べ伝えるようにされた時、直ちに私は血肉と相談もせず。**

**A.** パウロはキリスト・イエスを知る知識の卓越性に、極めて大きな価値を置きました。これは、キリストに関するパウロの親密な、優しい感覚を伝達する「私の主」という言葉によって示されています。

**B.** パウロの目は開かれて、すばらしい、すべてを含むキリストの卓越性を見ました。彼は、この卓越性のゆえに、宗教的な益や天然的な益に関するものであっても、すべての事を損失であると勘定しました。

**C.** 8節の「すべての事」は、パウロがキリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、宗教的な事柄だけでなく、すべての事を捨てたことを示しています。ですから、パウロにとって、すべての事の損失とは、あらゆるものの損失でした。

**D.** 私たちはキリストを知る知識の卓越性を持って持つほど、ますます宗教的なあらゆるものと天然的なあらゆるものを損失と勘定するようになります。

**IV. パウロはキリストのゆえに、すべての事で損失を被り、それらをちりあくと勘定しました。それは、彼がキリストを獲得するためでした:**

**A.** 8節の「すべての事」は、宗教、哲学、文化に属するものを含んでいます。パウロがこれらすべての事で損失を被ったのは、それらがキリストの代替物であって、サタンによって用いられた罠であり、人々をキリストとキリストに対する経験から離れさせたからです。 **金**

**B.** 私たちがキリストを獲得するのは、かつて自分にとって益であったすべての事で損失を被ることによってであり、またそれらをちりあくと勘定することによってです:

1. 8節の「獲得する」というギリシャ語は、「確保すること、得ること、捕らえること」を意味しています。ピリピ3:8 [キリスト]のゆえに、私はすべての事で損失を被りましたが、それらをちりあくと勘定します。それは、私がキリストを獲得するためであり。2. キリストを獲得することは、彼のパースンを獲得し、キリストの計り知れない豊富すべてを経験し、享受し、所有することです。

3. 私たちはパウロのように、キリストのゆえにすべての事を損失と勘定するだけでなく、すべての事で損失を被り、すべての事をちりあくと勘定すべきです。

3:7 **しかし、私にとって益であった事柄を、私はキリストのゆえに、損失と勘定するようになりました。**

4. 私たちはキリストのゆえに、すべての事で損失を被り、それらをちりあくと勘定すればするほど、ますますキリストを獲得して、経験と享受とならせます。 **土**



**Crucial Point①: 神の霊によって仕え、キリスト・イエスの中で誇り、肉を頼みとしない(ピリピ 3:3)**

**OL1:** 自信は、肉の特徴です。対処されていない肉の最も明白なしるしは、自信です。肉を頼みとすることは、私たちをキリストから離れさせます。

**OL2:** 神の子供たちの中の最も大きな問題は、肉が何であるかを彼らが知らないことと、彼らの肉が対処されてこなかったことです。

**OL3:** 私たちは神によって照らされたときにはじめて、自分の天然の資格、能力、知性に信頼しないと、真に言うことができます。そのときにはじめて私たちは、肉を頼みとせず、完全に主を頼みとすると証しすることができるようになります。

**OL4:** もし私たちがキリストを経験しようとするなら、肉に信頼してはならず、ただ主にだけ信頼しなければなりません。これがキリストを経験する秘訣です。

多くのクリスチャンは、肉を頼みとすることは、私たちの人の性質の罪深い要素を頼みとすることを意味すると思っています。しかしこれは、ピリピ 3:3 の「肉」の意味ではありません。…パウロは肉を頼みとしなかったと言った後、続けて、「とはいえ、私自身も、肉を頼みとするものを持っています。もしだれか他の人が、肉を頼みとしようとするなら、私はなおさらそうです。私は八日目に割礼され、イスラエル民族の者、ベニヤミン族の者、ヘブル人の中のヘブル人、律法についてはパリサイ人、熱心については召会を迫害し、律法にある義については、責められるところのない者です(ピリピ 3:4~6)」。これらのものはすべて、パウロの肉の各面でした。しかしながら、おそらく、あなたは決してそのようなものを肉と考えたことはなかったでしょう。私たちは、肉が邪悪なものだけを含んでおり、良いものは含んでいないと思っています。それにもかかわらず、私たちの天然の存在の尊い、愛すべき、すぐれた面もやはり肉です。パウロが律法について、また熱心について行なったすべてのことは肉であり、また肉のものでした。律法についての彼の義も肉でした。これらの節でパウロが記載した七つの特徴はすべて、肉の各面です。なぜなら、それらはみな天然のものであり、キリストのものでも、神の霊のものでもないからです。天然のものは何であれ、それが良くても悪くても、肉です。

対処されていない肉の最も明白なしるしは、自信です。自信は、肉の特徴です。ピリピ 3:3 は、「**私たちこそ割礼の者であり、…肉を頼みとしていない**」と言っています。肉を頼みとしないとは、肉に自信がないことです。十字架によって打たれた人はすべて、砕かれています。彼らという人は残っているかもしれませんが、彼らは神を畏れることを学び、もはや自分自身に信頼したり、自分自身を頼みとしたりしません。人は主によって対処される前、彼の行く手にやって来るいかなる事も直ちに判断したでしょう。彼は口を開いて、すぐに判断したでしょう。しかし人は主によって対処された後、軽々しく判断しません。彼にはもはや頼みとすることはないので、すぐに提案し、自分自身の力を信じる者はだれも、十字架を認識していません。そのような人は、決して十字架の働きを経験したことがありません。いったん私たちの肉が割礼されると、私たちはもはや自分自身を信じません。私たちは自信に満ちることはなく、容易に自分の意見を表明しません。私たちは主の御前で、自分が弱く、力がなく、どうしようもなく、揺らいでいることを見なければなりません。

**奉仕者編**

救われたあなたは皆、新約の福音の祭司です。あなたは毎週「出て行って」、福音と牧養を実行してください。あなたは忠信に毎週このことを実行すれば、あなたの地

区は必ず拡張することができます。7月13~15日に、東京で全国責任者成就集会有り、「福音と牧養を毎週実行する交わり」がありました。令和元年を日本の諸召会の「**拡張元年**」にして、互いに励まし合い、前向きに実行していくことが決まりました。あなたは聖霊の流れの中に飛び込み、流れの中で忠信に奉仕してください。

あなたは福音と牧養の奉仕にあずかりながら、「**神の霊によって仕え、キリスト・イエスの中で誇り、肉を頼みとしない(ピリピ 3:3)**」ことを学んでください。ここでの肉は、邪悪なもの、「**肉の働きは明白です。すなわち、淫行、汚れ、好色、偶像礼拝、まじない、敵意、争い、しつと、怒りの爆発、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、宴楽、そのような類の事柄です。(ガラテヤ 5:19~21)**」を含むだけでなく、「**出生が良いこと**」、「**優れた教育**」、「**優れた業績**」などの良いことに信頼することも含んでいます。あなたは、しつとや競争心に燃えて奉仕してはいけません。それだけでなく、あなたは自分の能力や優れた過去の経験に頼ることも肉を頼みとすることであることを認識してください。「肉を頼みとすること」とは人が自分自身に信頼し、神に頼らないことです。肉は邪悪なものとも良いものを含みます。もしあなたが過去の福音における成功体験だけに頼って、神に頼らず、神の霊によって仕えないなら、神はあなたの福音活動を祝福することはできません。過去の成功が間違っているのではないのですが、過去の成功に頼って、今、神に頼らないことが間違っているのです。また、肉は自分自身の中で誇り、キリスト・イエスの中で誇りません。

**祈り:** 「おお主イエスよ、私は福音と牧養の奉仕において、『**神の霊によって仕え、キリスト・イエスの中で誇り、肉を頼みとしない**』ことを学びます。全日本の諸召会の奉仕者の兄弟姉妹と共に、聖霊の流れに乗り、神の霊によって仕え、自分の自信を十字架に付け、キリスト・イエスの中で誇り、自分に信頼せず、神に信頼し、奉仕することを学びます。日本の「**拡張元年**」を祝福してください! **アーメン!**」

**Crucial Point②: キリストを知る知識の卓越性のゆえに、毎週、キリストに関する真理を学ぶ必要がある**

**OL1:** キリストを知る知識の卓越性は、キリストに属する知識ではありませんし、キリストご自身が持っている知識でもありません。そうではなく、この知識は私たちが主観的にキリストを知ることです。

**OL2:** ピリピ 3:8 の「**知識**」は、実はキリストと彼の卓越性に関する啓示、ビジョンを意味します。神がキリストをパウロに啓示した時、パウロは、キリストの超越性、無上の尊さ、ずば抜けた価値を見ました。

**OL3:** もし私たちがキリストを経験しようとするなら、キリストを知る知識の卓越性をまず持つ必要があります。

キリストを知る知識の卓越性は、彼のパースンの卓越性から来ます。ユダヤ人は、モーセを通して与えられた神の律法を、歴史における最もすぐれたものと考えています。ですから、彼らは律法に熱心です。パウロは、それに熱心にあずかっていました。しかし、神がキリストを彼に啓示された時、パウロは、律法の卓越性にはるかにまさるキリストの卓越性、超越性、無上の尊さ、ずば抜けた価値を見ました。キリストについての彼の認識は、キリストを知る知識の卓越性という結果になりました。このゆえに、彼は律法や、律法の上に成り立っている宗教だけでなく、すべての事柄を損失と勘定しました。

キリストを知る知識の卓越性は、彼のパースンの卓越性から来ます。キリストがご自身にあつて卓越しておられ



ることには、何の疑いもあり得ません。しかし、もし…私たちがキリストの卓越性についての知識に欠けるなら、彼の卓越性は私たちにとって何の意味もありません。

**ピリピ 3:8** は、「**キリストを知る知識の卓越性**」について語っています。…キリストを経験するために、私たちはまずキリストを知る知識を必要とします。私たちは彼を知らなければなりません。この章は、キリストを知る知識を大いに強調しています。…私たちはここで、キリストを知ることを強調しなければなりません。キリストご自身が、岩としてのご自身の上ではなく、彼に関する啓示の上に彼の召会を建造すると強調されました。啓示は知るためです。キリストに関する啓示がなければ、私たちは確かに彼を知ることができません。私たちはキリストを知るためにこの啓示を必要とします。

### **新人及び青少年、大学生編:**

新人や若い学生の兄弟姉妹は真理を少しずつ学んでください。あなたのキリストの経験と享受は、あなたのキリストを知る知識に依存します。あなたのキリストの経験はキリストを知る知識を超えることはできません。

「回復訳聖書」、「生命課程」、「初信者の養い」、「高い福音」、「朝ごとの食物の Crucial Point: 新人及び青少年、大学生編」などの基本的な真理を毎週家庭集会で少しずつ兄弟姉妹と一緒に、10～15分を使って読んでください。主が知恵と啓示の霊を賜い、あなたの家庭集会での追求が祝福されますように。キリストを知る啓示により、あなたの経験は引き上げられることができます。

**エペソ 1:17** どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の御父が、知恵と啓示の霊をあなたがたに与えて、あなたがたに彼を十分に認識させ、

**18** あなたがたの心の目が照らされ、神の召しの望みがどんなものであるかを、あなたがたが知るように。

例えば、キリストは復活の中で命を与える霊となりました。それは神がご自身を人の中に分与し、召会、キリストのからだを建造するためです。この分与によって、信者は再生され、更新され、造り変えられ、建造されます。

主の御名の中に信じ入ることは、一瞬にして起こります。例えば、主イエスと共に十字架に付けられた二人の強盗の内、一人は死ぬ直前に悔い改めて救われました。彼は神の御前で法理的に贖われ、救われました。実はこの救われた強盗も、最初は十字架上で主をののしっていたのですが、途中で悔い改めました。主を賛美します。

**マタイ 27:44** イエスと共に十字架につけられていた強盗たちも、同じように彼をののした。

**ルカ 23:39** そこに掛けられていた犯罪者の一人は、彼を冒とくして言った、「おまえはキリストではないのか？ 自分自身と私たちを救え！」。40 ところが、もう一人が答えて、彼をたしなめて言った、「おまえは同じ裁きを受けていながら、神を恐れぬのか？ 41 われわれは自分のやったことの報いを受けているのだから当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない」。42 そして彼は言った、「イエスよ、あなたがあなたの王国に入られる時、私を覚えてください」。43 イエスは彼に言われた、「まことに、私はあなたに言う。今日あなたは、私と一緒にパラダイスにいる」。

しかし救いには、法理的な面だけでなく、有機的な命の成長と建造の面があります。この面は、一瞬に起こるのではなく、長い時間がかかります。神は法理的な贖いを根拠に、有機的な救いのための分与を遂行しています。そしてこの分与は、完全にキリストが復活の中で「命を与える霊」となられたことによります。あなたは必ず、今日、キリストは命を与える霊であり、空気のように今ここにおられることを知ってください。あなたが主の御名を呼んだ時から、

主はあなたの中に居られます。あなたが霊の中で主の御名を呼べば呼ぶほど、祈れば祈るほど、命を与える霊であるキリストで満たされます。あなたはキリストが今、命を与える霊であるという真理を知らなければ、有機的な救いを経験することはできません。**I コリント 15:45** 最後のアダム(肉体となったキリスト)は命を与える霊となったのです。**II コリント 3:15** まことに、今日に至るまで、モーセの書が読まれるたびに、おおいが彼らの心にかかっているのです。**16** しかし、彼らの心が主に向く時はいつも、そのおおいは取り除かれます。

**17** そして主はその霊です。そして主の霊のあるところには、自由があります。**18** しかし、私たちはみな、主の栄光をおおいのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。

祈り:「おお主イエスよ、私はもっとキリストを知りたいです。それは私がかつてキリストを経験するためです。私のキリストはすべてを含み、無限に拡張する方です。私は彼を自分の制限された観念や宗教的な観念の中に閉じ込めることはできません。私に知恵と啓示の霊を与え、私の観念の覆いを取り除いてください。毎週少しずつ真理を学びます。キリストを知ることは卓越しています。知識は私を経験に導きます。毎週私のキリストに関する啓示と知識を更新してください。アーメン！」

### **Crucial Point③:私の主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定する**

**ピリピ 3:7** しかし、私にとって益であった事柄を、私はキリストのゆえに、損失と勘定するようになりました。

But what things were gains to me, these I have counted as loss on account of Christ.

**8** しかしさらに、私はまた、私の主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定します。その方のゆえに、私はすべての事で損失を被りましたが、それらをちりあくと勘定します。それは、私がキリストを獲得するためであり、

But moreover I also count all things to be loss on account of the excellency of the knowledge of Christ Jesus my Lord, on account of whom I have suffered the loss of all things and count them as refuse that I may gain Christ

**OL1:** 8 節の「すべての事」は、宗教、哲学、文化に属するものを含んでいます。パウロがこれらすべての事で損失を被ったのは、それらがキリストの代替物であって、サタンによって用いられた罠であり、人々をキリストとキリストに対する経験から離れさせたからです。

**OL2:** 私たちがキリストを獲得するのは、かつて自分にとって益であったすべての事で損失を被ることによってであり、またそれらをちりあくと勘定することによってです。

私たちは、まだ自分の国民的な哲学や自国の論理を固守しています。…私たちが自国の論理や国民的な哲学を固守することは、私たちからキリストを奪います。ある意味で、これは私たちの経験において、キリストを私たちから追い払います。こうかつで、秘かな、隠された方法で、宗教的、哲学的、文化的な事柄が、信者たちを、最上のクリスチャンをさえ占有し、キリストの経験から遠ざけます。今日、世界のどこへ行っても、キリストがどの国民にも人々の群れにも道を得ておられないことを見いだすでしょう。この世のあらゆる部分で、国民的な哲学と自国の論理がとても強く、信者たちの中にはキリストに対する余地がほとんどないのです。

おお、敵のこうかつさは暴露される必要があります！ 少なくともある程度まで、私たちはまだ内側に特定のもの、こ



うかつで、ひそかな方法で、キリストの代替物を持っているのです。これらの代替物は、おもに宗教、哲学、文化を含んでいます。その結果、私たちはまだ、完全に徹底的にキリストによって占有されていません。私たちはまだ、キリストのゆえにすべての事を損失と勘定していません。

もしこの世の、物質の事柄を落とすだけであるなら、キリストを経験することはできません。もしこれが**ピリピ 3:8**の「**すべての事**」に対する私たちの理解であるなら、私たちはここで啓示されているキリストの経験からはほど遠いのです。これらの節は表面的ではありません。文脈によれば、パウロは浅薄な、外側の事を語っているのではありません。彼はおもに物質の事柄に関心はありません。彼の概念は、宗教、哲学、文化の事柄、さらには私たちの自国の論理や国民的な哲学、私たちの内側深くに隠された事柄とさえ関係があります。…私たちがこれらの事柄を放棄して、キリストに立場を与え、彼を経験することはとても困難です。私は生涯のうちに、多くのクリスチャンに会いました。しかし、自分の国民的な哲学や自国の論理を捨ててキリストを経験することを選ぶことができた人を、私は多く知りません。

### 青年在職・大学生編

すべてを含み、無限に拡張するキリストを経験するためには、キリストを知り、自分にとって益であった事柄を、キリストのゆえに損失と勘定するようになる点に至るべきです。

例えば、あなたは極めて優れた教育を受けました。あなたのその教育背景はあなたが良い仕事を得るのに大きな助けとなります。しかし教育があなたを助けるのは 35 歳くらいまでで、30 代後半になると、教育よりも仕事のキャリアに重点が置かれます。しかし極めて高い教育を受けた人の多くは、過去の成功体験に留まり、そのことが原因となり成長できなくなっています。そのような人たちは自分の極めて優れた教育背景をかなぐり捨てなければ、成長することができないのです。

クリスチャンであるあなたは、キリストを知る知識の卓越性のゆえに、あなたにとって益であった高い教育、資格、会社における高い地位に頼ってはいけません。そうするとあなたはキリストを失ってしまいます。これらの優れたものを損失とみなさなければ、あなたは自然にこれらの肉の中にある優れた面に頼り、キリストに頼りません。

あなたはなんと知恵と啓示の霊が必要でしょう。キリストはあらゆる国の国民性を超越し、世界で最も優れた教育を超越し、世界で最も優れた企業の戦略を超越しているので、天然の思いの中に留まっていると、すべてを含み無限に拡張するキリストを経験することは不可能です。宇宙で最高の宝であるキリストを経験し享受するために、すべての事を損失と勘定すべきです。パウロが**ピリピ 3:8**で言っている「**すべての事**」は、肉の中にある優れた事だけでなく、過去の優れたキリスト経験も含みます。

**ピリピ 3:12** 私は、すでに得たとか、すでに完成されているとか言うのではありません。私は、それを捕らえようと追い求めているのですが、それは私が、キリスト・イエスによって捕らえられているからです。

Not that I have already obtained or am already perfected, but I pursue, if even I may lay hold of that for which I also have been laid hold of by Christ Jesus.

**13** 兄弟たちよ、私はまだ自分自身、捕らえたとは思っていません。ただ一つの事、すなわち、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、  
Brothers, I do not account of myself to have laid hold; but one thing I do: Forgetting the things which are behind and stretching forward to the things which are before,

**14** キリスト・イエスの中で私を上を召してくださった神の賞を得るために、目標に向かって追い求めています。

祈り:「おお主イエスよ、私にとって益であった事柄をキリストのゆえに損失と勘定する点に至るまで、私がキリストを知ることができますように。私は過去のキリスト経験ですら忘れ、前にあるものに向かって体を伸ばし、目標に向かって前進します。私のクリスチャン・レースにおいて、途中で留まったり、停滞したりすることがないようにしてください。主の恵みに頼り、キリストを知る知識を更新し続け、キリストを経験することで前進し続けることができますように」。

### 高い福音 第15課 バプテスマされる(下)

**マタイ 28:19** だから、行って、すべての諸国民を弟子とし、父と子と聖霊の名の中へと彼らをバプテスマして、  
**紅海を渡ることはバプテスマを予表する**

神の選ばれた人々に対する彼の全体的な救いは、過越し、エジプトからの脱出、紅海を渡ることを含みます。過越しは贖いを表徴し、脱出はこの世から出て行くことを表徴し、紅海を渡ることはバプテスマを表徴します。紅海を渡ることによって、イスラエルの子たちはエジプトから救われ、また自由の領域へともたらされました。何という救いでしょう！原則において、バプテスマは今日私たちにあって同じです。それは私たちを束縛から救い、キリストにある絶対的な自由へともたらします。

**信じることとバプテスマされるのが一緒にあって、完全な一歩となる**

主を信じ、バプテスマされる前に、私たちは罪人でした。しかし福音の宣べ伝えを通して照らされた時、私たちは自分が非常に罪深いことを認識するに至りました。神の御前にまた人に対して、私たちは多くの違反、侵害などを持っていました。そして、私たちは非常に多くの罪の行為を持っていました。その後、私たちは悔い改め、主を信じ、彼の赦しを受け、そして救われました。しかし、私たちの悔い改めと信じることには外側の表現が必要です。この表現がバプテスマです。こういうわけで、バプテスマと、私たちが信じること、私たちの信仰は一つの事の二面です。この理由により、新約は信じることとバプテスマされることについて語っています。信じることとバプテスマされることは、完全に一歩踏み出すために両足を使うことに例えることができます。まず、私たちは信じます。私たちが信じることは、片方の足を前に出すことです。それから私たちはバプテスマされます。私たちのバプテスマは、もう片方の足を前に出し、その完全な一歩を完成させることです。信じることとバプテスマされるのが一緒にあって、完全な一歩となります。

詩歌 740 **バプテスマ — 主の墓を囲む** (英 935)

- 1 主イエスよ、なれの はかをかこみ、  
ながわざのゆえ、あかしをする。  
われら信仰もて ながみち行き、  
このみずにより、みわざに入る。
- 2 主イエスの苦難を いま記念する、  
ほえたけるなみ、なれをおそう、  
死のみずのなか、バプテスマされ、  
御血をながして、わがため死ぬ。
- 3 主は復かつて、くらやみなし、  
御座にのぼって、永遠に生きる；  
死とよみ、やぶり、われもともに、  
ながいのちにて、みわざ享受す。
- 4 バプテスマされ、主の死といち！  
ともに復かつし、栄光を受ける。  
サタン、この世、つみ、もはや縁なし；  
たびびととして、ともに生きる。